

## 学ぶ楽しさを実感できる算数科学習指導 ～ 少人数指導「じっくりコース」での実践を通して ～

奄美市立小宿小学校 教諭 鯨坂 徹郎

### はじめに

本校では、算数科の習熟度別少人数指導を行っており、私は「じっくりコース」を担当しています。児童の学習内容の確実な定着を図るために、本研究に取り組みました。

「楽しいともっと～したくなる」「楽しいと～に没頭する」この思いは、学習に限らず、他のいろいろな生活場面でも見られることです。学ぶ楽しさを実感できる授業を積み重ねることにより、「楽しさ」が「学ぶ意欲」や「考える」ことへの原動力になると考えました。

### 「学ぶ楽しさ」とは

- 1 数学的活動を通して得られる楽しさ
  - ・ 活動そのものの楽しさ ・ 新しいことを発見する楽しさ
- 2 他者との関わりを通して得られる楽しさ
  - ・ 認めてもらえて ・ 分かってもらえて
  - ・ ほめてもらえて
- 3 自分の成長を認識していく中で得られる楽しさ
  - ・ 満足感や達成感(分かった!できた!)・ 自信(できる!)

### 研究の実際

#### 興味・関心をもつような課題提示の在り方

教科書の問題は、東市と西町の人口密度を求めようになっていましたが、興味・関心をもてるようにするために、地域素材を活用した学習課題提示を行いました。その際、頭の中で容易にイメージできたり、生活との関連付けを意識したりできることを大切にしました。



【人口密度の学習における課題提示と人口密度のイメージ図】

- T: 奄美市と龍郷町どっちが混んでいると思う?  
C: そりゃ、奄美市でしょ。  
T: そうかなあ。奄美の中心部には人がいっぱいいるイメージだけど、奄美市には、住用や笠利も入るよ。  
C: そうか……。もしかしたら龍郷かも。

#### 主体的に学習に取り組む意見交流の在り方

##### ○ 「なんで?」「本当に?」という言葉かけ

答えを発表した児童に、「なんで?」「本当に?」と問い返します。理由を考えることで思考力が、解き方を説明することで表現力が身に付くと考えています。そして、学習のまとめにつながるキーワードが児童から出てきたときは、教師は、はっきり聞こえなかったふりをしたり、理解できなかったようなふりをしたりして、再度尋ねます。児童は同じ言葉を再度聞くことにより、キーワードを確実に理解できます。また、キーワードに気付けたことを称賛し、自信と意欲につなげています。

##### ○ 「Aさんの考えをBさん説明して」「この続きをCさん説明して」という言葉かけ

児童が考えを説明している間、他の児童は聞いているようで聞いていない、聞いているだけで考えていないという場面がよく見られました。そこで、児童Aの説明を聞いていた他の児童に「Bさん説明してみて」と指示したり、途中まで説明させた後に「ストップ!この続きをCさん説明してみて」と、さらに他の児童に指示したりしました。考えを自分なりに解釈したり、しっかり説明を聞いたりしていなければ、これらの指示には応じられないため、児童は集中して友達の発表に耳を傾けるようになりました。

#### 習熟(練習問題)時の児童相互の学び合い

練習問題が早く終わった児童には、まだ終わっていない児童の丸付けや、解き方を教えさせています。教えてもらう児童は、教師に丸付けしてもらったと同様の満足感・達成感を味わうとともに学習内容を理解できます。教える児童は、自信をもっており、意欲的に丸付けや説明ができます。また、解き方の説明が理解されると、丸付け以上の満足感や達成感を味わうことができます。このような学び合いを通して、学ぶ楽しさを実感できると考えました。



【児童相互の学び合い】

### おわりに

多くの児童が算数の授業に笑顔でやってきます。さらなる学力向上を目指し、学ぶ楽しさを通して自信と意欲を高めていきたいと考えています。